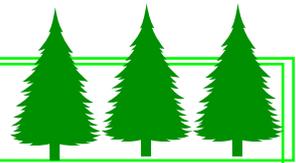




みつぎ便り



第194号 11月号 令和4年11月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です

カリン

空気が乾燥し埃っぽいと、咳が出やすくなります。そんな時重宝するのが、のど飴です。昔から「咳止めの効能がある」といわれているカリンのエキス入りのど飴もあります。実際にカリンの実は、咳止めや炎症を抑える成分が含まれているとのこととです。

カリンの木は、平安時代までは観賞用・薬用として中国から渡来していたそうです。果実はかたく、渋味が強くて生では食べられませんが、熟すと芳香がします。今が旬の果物なので、カリン種やはちみつ漬け・カリンシロップを作ってみてはいかがでしょうか。

九月にまだ青みが残りふっくらとした楕円形で、さわるとつるつるした実が一つなっているのに気が付きました。春には花が咲いていたはずですが、この実のお陰で、その木がカリンであることがわかりました。公園には、果物の木を植えないことになってるので、鳥が種を運んでくれたのでしょう。

来年の四月ごろ、直径三センチほどの淡紅色の花をいくつもつけるのを楽しみにしています。
(敦)



ヒヨドリバナ

ボート小屋のすぐ裏の階段のわきに長い茎の先に小さな白い花を一杯咲かせた一メートルほどの高さの草が見られます。秋の七草に数えられるフジバカマ（藤袴）と同じキク科のヒヨドリバナ（鶉花）です。ヒヨドリバナは山地、丘陵にごく普通に生えるキク科の多年草で、高さは一〜二メートルになります。花期は八月〜十月で、ヒヨドリ（鶉）が里にきて鳴く頃に花が咲くことからヒヨド

リバナと名付けられたようです。葉は対単葉で長さ八〜十五センチ、幅二〜六センチの卵状長楕円形〜長楕円形で先端は尖り、へりは鋸歯があります。葉の両面には縮れた短毛がまばらに生えていて触るとざらつきます。花は管状花からなり、雄しべが花の外に突き出ます。葉は元気な状態だと葉っぱの匂いだけなのに、しておいて乾いてくると、桜餅のような甘い香りを出します。これは草の中に含まれるタマリンによるものです。皆さまも試してみてください。
(薫)

